



Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

XCP 1080 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-6814-10
2008 年 12 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インターフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

プロダクトノート	1
XCP 1080 に関する一般的な情報	3
XCP 1080 の新機能	3
サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム	4
Solaris パッチ情報	5
Solaris 10 10/08 のパッチ	5
Solaris 10 5/08 のパッチ	5
Solaris 10 8/07 のパッチ	6
Solaris 10 11/06 のパッチ	6
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	7
QLogic PCIe カードのパッチ	7
Solaris パッチの入手方法	7
Update Manager GUI を使用したパッチの入手	8
smpatch CLI を使用したパッチの入手	10
XCP 1080 へのアップグレード	11
XSCF ファームウェアのリセット	11
OpenBoot PROM ファームウェアのアップデート	11
XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート	12
XCP 1080 より前のバージョンからのアップデート	12

機能の問題と制限事項 12

SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項 12

一般的な機能の問題と制限事項 12

追加情報および手順 15

システムへのログイン 15

DVD ドライブと cfigadm 15

Sun Crypto Accelerator 6000 カード 16

U320 PCIe SCSI カード 16

XSCF Web ブラウザの問題 17

WAN ブートサーバからのブート 18

システムメモリの識別 19

- ▼ システム内の縮退メモリの識別 19
- ▼ showdevices コマンドの使用によるメモリサイズの識別 19
- ▼ prtdiag コマンドの使用によるメモリサイズの識別 20
- ▼ ターゲットボードのカーネルメモリの識別 21

CPU アップグレード（当社技術員のみ） 22

新しいドメインに追加された SPARC64 VII CPU モジュール 23

既存のドメインに追加された SPARC64 VII プロセッサ 26

- ▼ 既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備 26
- ▼ SPARC64 VI で構成されているドメインへの SPARC64 VII CPU モジュールの追加 29
- ▼ 既存ドメインにおける SPARC64 VI CPU モジュールの SPARC64 VII へのアップグレード 30

ソフトウェアに関する情報 33

XCP に関する問題と回避方法 33

Solaris OS に関する問題と回避方法 36

サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題 36

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題 41

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題 43

Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題	47
ドキュメントの変更予定	52

プロダクトノート

このプロダクトノートには、SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M8000/M9000サーバには、Solaris™ Operating SystemおよびSun Java™ Enterprise Systemソフトウェアがプレインストールされています。

最新のSolarisパッチ

SPARC Enterprise M8000/M9000サーバの必須Solarisパッチは、システムにプレインストールされています。使用しているSolaris OSのバージョンに必要なパッチの一覧については、「[Solarisパッチ情報](#)」(P 5)を参照してください。

追加情報

追加情報については、使用しているSolaris OSのバージョンに対応するリリースノートと、次のURLのBig Admin Webサイトを参照してください。

<http://www.bigadmin.com>

XCP 1080 に関する一般的な情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP 1080の新機能」 (P 3)
- 「サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム」 (P 4)
- 「Solarisパッチ情報」 (P 5)
- 「Solarisパッチの入手方法」 (P 7)
- 「XCP 1080へのアップグレード」 (P 11)
- 「機能の問題と制限事項」 (P 12)
- 「追加情報および手順」 (P 15)

XCP 1080の新機能

XCP 1080版では、次に示す新しいXSCFコマンドがサポートされています。

- `dumpconfig(8)`
- `ping(8)`
- `restoreconfig(8)`
- `traceroute(8)`

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFリファレンスマニュアル』または各コマンドのman pageを参照してください。

サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム

表 1に、本リリースでサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) のバージョンを示します。

表 1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

ソフトウェアまたはファームウェア	バージョン
XSCF Control Package	1080
SPARC64™ VIIプロセッサ:	XCP 1071
Capacity on Demand (COD) サポート:	XCP 1050
Solarisオペレーティングシステム	
SPARC64 VIプロセッサ:	Solaris 10 11/06以降 (必須パッチ適用済み)
SPARC64 VIIプロセッサ:	Solaris 10 8/07以降 (必須パッチ適用済み) *

* パッチについては、「[Solarisパッチ情報](#)」(P 5) を参照してください。
最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

注 – Solaris 10 8/07インストール用DVDでは、SPARC64 VIIプロセッサを搭載したドメインをブートできません。SPARC64 VIIプロセッサを搭載したドメインをブートするには、Solaris 10 5/08インストール用DVDを使用します。

XSCF Webは、多くのWebブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Webの動作することが確認されているWebブラウザは、表 2のとおりです。

表 2 確認されたWebブラウザのバージョン

Webブラウザ	バージョン
Firefox	2.0および3.0
Microsoft Internet Explorer	6.0および7.0

Solarisパッチ情報

この項では、M8000/M9000サーバの必須パッチを示します。

パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチのREADMEを参照してください。

この項に示すパッチIDは、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com>を確認してください。

パッチは、記載されている順序で適用します。パッチを含めたCPUのアップグレードの手順については、「[CPUアップグレード \(当社技術員のみ\)](#)」 (P 22) を参照してください。

その他のSolaris OSの情報については、「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」 (P 36) を参照してください。

Solaris 10 10/08のパッチ

Solaris 10 10/08 OS以降を実行する本体装置の場合、パッチは不要です。

Solaris 10 5/08のパッチ

Solaris 10 5/08を実行するM8000/M9000サーバすべてに、次のパッチが必要です。

■ 137137-09

Solaris 10 5/08 OSは、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

Solaris 10 8/07のパッチ

次のパッチは、SPARC64 VII CPUを搭載した本体装置上のSolaris 10 8/07OSに対してのみ必要です。次に示す順序でインストールします。

1. 119254-51 - SunOS 5.10:インストールおよびパッチユーティリティーパッチ
2. 125891-01 - SunOS 5.10:libc_psr_hwcap.so.1パッチ
3. 127755-01 - SunOS 5.10: Fault Managerパッチ
4. 127127-11 - SunOS 5.10:カーネルパッチ

Solaris 10 8/07 OS (パッチ127127-11) は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

Solaris 10 11/06のパッチ

Solaris 10 11/06 OSには、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06ではSPARC64 VIIプロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールします。

1. 118833-36 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
2. 125100-10 – その他のパッチ要件の一覧については、パッチのREADMEファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24
7. 120222-21
8. 125127-01 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
9. 125670-02
10. 125166-05

Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示すEmulexカードは、パッチ120222-26で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek™ Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCIe HBA (部品番号SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCIe HBA (部品番号SG-XPCIE1FC-EM4)

QLogic PCIeカードのパッチ

次に示すQLogicカードは、パッチ125166-10で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCIe HBA (部品番号SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCIe HBA (部品番号SG-XPCIE1FC-QF4)

Solarisパッチの入手方法

Sunsm Connection Update Managerを使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Managerの詳細については、次のURLにある『Sun Update Connection System Administration Guide』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

システムを登録し、Sun Connection Update Managerを使用して最新のSolaris OSパッチを入手するには、次の2つの方法があります。

- 「Update Manager GUIを使用したパッチの入手」 (P 8)
- 「smpatch CLIを使用したパッチの入手」 (P 10)

インストール情報とREADMEファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。



注意 – Solaris 10 11/06 OSを実行するSPARC Enterprise M8000/M9000サーバの場合、Sun Connection Update Managerを使用する前に、パッチ123003-03および124171-06をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて<http://sunsolve.sun.com/>からダウンロードできます。これ以降のバージョンのSolaris 10 OSを実行している本体装置の場合は、これらのパッチは不要です。

Update Manager GUIを使用したパッチの入手

1. rootとして、次のいずれかの方法でUpdate Managerを起動します。

- [JDS Launch]メニューで
[Launch]->[Applications]->[System Tools]->[Update Manager]の順にクリックします。
- 端末ウィンドウで
/usr/bin/updatemanagerと入力します。

2. 登録を完了します。

- すでに登録している場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
- まだ登録していない場合は、Update Managerのインターフェースを使用して登録手続きに進みます。画面の指示に従います。

注 – Sun Connection Update Manager GUIを使用して登録を完了できない場合は、コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してパッチを入手してください。
「[smpatch CLIを使用したパッチの入手](#)」 (P 10) を参照してください。

3. Update Managerの[Available]タブで、[Update Collection]ドロップダウンメニューを開き、[Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers]を選択します。

Update Managerは、必要なパッチがあるかどうか、システムを分析します。

- カーネルパッチが推奨される場合、パッチIDの左側にあるボックスをクリックしてこのパッチを選択し、[Install]ボタンをクリックします。

パッチは/var/sadm/spoolにダウンロードされます。

注 - カーネルパッチ（パッチ118833-xxなど）のインストールには、特別な手順が必要です（詳細についてはパッチのREADMEを参照してください）。多くの場合、カーネルパッチはダウンロードのみの（対話型）パッチで、手動でのインストールが必要です。パッチセットにあるその他のパッチをインストールするには、カーネルパッチを先にインストールする必要があります。

- カーネルパッチの場合は、続けて次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

- 次のファイルに示されているインストール手順を実行します。

/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx

- patchid-xxをインストールした後、shutdownコマンドを使用してシステムを再起動します。

rebootコマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。Update Managerまたはshutdownコマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

- 再びUpdate Managerを起動して、ステップ 3と同様にコレクションを選択します。

- Update Managerで新しい分析が自動的に開始されない場合は、[Check for Updates]ボタンをクリックします。

- パッチの一覧で、パッチIDの左側にあるボックスをオンにしてパッチを選択します。

- [Install]ボタンをクリックします。

Update Managerは、パッチをダウンロードしてインストールします。

- パッチのいずれかでシステムの再起動を求められた場合は、ステップ 7の手順に従います。

再起動を必要とするパッチをインストールした場合、Update Managerによってシステムを再起動できます。または、ステップ 7の説明どおり、shutdownコマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールは完了しました。

smpatch CLIを使用したパッチの入手

1. ファイル/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.propertiesを/tmpディレクトリにコピーします。
2. ユーザー名とパスワード、および必要に応じてネットワークプロキシとポートを追加するように、ファイル/tmp/RegistrationProfile.propertiesを編集します。

注 – ユーザー名およびパスワードは、Sunオンラインアカウントです。アカウントを作成するには、<http://sunsolve.sun.com>にアクセスしてください。

3. システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem4k5k8k9k
```

5. カーネルパッチがあれば、インストールします。

カーネルパッチ (118833-xxなど) は、Sun Connection Update Managerでダウンロードできます。

- a. パッチを/var/sadm/spoolディレクトリにダウンロードします。

```
# smpatch update -i patchid-xx
```

- b. パッチを解凍します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

- c. ファイル/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xxに示されているインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. システムを再起動します。

rebootコマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。Update Managerまたはshutdownコマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

7. パッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. パッチをダウンロードしてインストールします。

```
# smpatch update
```

9. パッチのいずれかでシステムの再起動が求められた場合は、[ステップ 6](#)を参照してください。

再起動を必要とするパッチをインストールした場合、Update Managerによってシステムを再起動できます。または、[ステップ 6](#)の説明どおり、shutdownコマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールは完了しました。

XCP 1080へのアップグレード

XCP 1050以降をXCP 1080にアップグレードできます。手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』を参照してください。

XSCFファームウェアのリセット

XCPファームウェアを1080以降にアップデートした後、rebootxscf(8)コマンドを使用してXSCFをリセットします。

OpenBoot PROMファームウェアのアップデート

ターゲットドメインのOpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアのアップデートを完了するには、ドメインを必ず再起動してください。ドメインは、アップデート完了後、できるだけ早く再起動する必要があります。

XCP 1050より前のバージョンからのアップデート

- XCP 1080以降に直接アップデートすることはできません。XCP 1050より前のバージョンを現在実行している場合は、まず中間バージョンである1050～1061（1061を含む）のXCPにアップデートしてから、XCP 1080以降にアップデートします。手順については、対象とする中間バージョンのプロダクトノートを参照してください。
- adminという名前のアカウントがある場合は、XCP 1050以降にアップデートする前に、deleteuser(8)コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。adminアカウント名は、XCP 1050以降で予約されています。

XCP 1080より前のバージョンからのアップデート

XCP 1080以降へのXCPアップデートの間に動作中であったドメインでは、Dynamic Reconfiguration (DR) を実行してSPARC64 VIIプロセッサを追加または交換する場合、OpenBoot PROMファームウェアをアップデートする必要があります。OpenBoot PROMファームウェアは、XCPをアップデートし、ドメインを再起動するとアップデートされます。このため、SPARC64 VIIプロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアをXCP 1080以降にアップデートした後は、すべてのドメインを再起動します。

機能の問題と制限事項

この項では、本リリースにおける既知の問題について説明します。

SPARC64 VIIプロセッサに関する制限事項



注意 – SPARC 64 VIIプロセッサをシャーシに搭載する前に、XCPファームウェアおよびSolaris OSのアップグレードを完了しておく必要があります。

一般的な機能の問題と制限事項



注意 – Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」 (P 36) を参照してください。

注 – 分電盤のメインラインスイッチまたはサーキットブレーカーによってシステムの電源を再投入する場合、電源を切断した後に少なくとも30秒待ってから、電源を投入してください。

- 次の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、およびdefault。
- Service Processor (SP) をNetwork Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立したNTPサーバを使用することによって、SPとドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTPの詳細については、Sun BluePrints™のマニュアル『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』 (<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- XSCFを使用し、XCPをインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、Webブラウザ上にWeb session ID errorが表示されることがあります。また、Autologout設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、Internal Server Errorが表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Webに接続し直してください。
- このXCPリリースの場合、XSCFブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCIボックス管理機能をサポートしていません。
- XSCF Webを使用するときは、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
- XSCF Webを使用する場合は、ブラウザのキャッシュ機能を無効にしてください。キャッシュを有効にしておくと、キャッシュされた古いデータがWebページに表示されてしまうことがあります。キャッシュを無効にする方法については、ご使用のブラウザによって、以下のように設定してください。
 - Internet Explorer 6および7
[ツール]->[インターネット オプション]->[詳細設定]タブにある[暗号化されたページをディスクに保存しない]をチェックします。
 - Firefox 2および3
アドレス欄にabout:configと入力し、フィルタ欄にcacheと入力します。Browser.Cache.Check.Doc.Frequencyの設定値を1に変更します。

- XSCF-LANはオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LANと接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LANと全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3の規約によって、XSCF-LANは半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。
- ZFSファイルシステムを使用しているドメインは、Dynamic Reconfiguration (DR) を使用できません。
- 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFPカードの場合、次の制限事項があります。
 - 使用できるカードはドメインあたり最大2枚
 - これらのカードをPCIボックスで使用しない
- 1つのPCIボックスで使用できるのは、最大4枚の4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTPカード (PCIe I/Oポートあたり2枚) です。
- IOUA (ベースI/Oカード) カードの最大数は、ドメインあたり6枚に制限されています。
- CD-RW/DVD-RWドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- 電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません (6557379) 。
- PCIボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- ターゲットドメインのOpenBoot™ PROMファームウェアのアップデートを完了するには、ドメインの電源を必ずオフ/オンしてください。
- DRは、XSCFフェイルオーバーまたはXSCFリセットと同時に実行できません。DR操作の進行中は、XSCFフェイルオーバーまたはリセットを開始しないでください。DR操作が終了するのを待ってから、フェイルオーバーまたはリセットを開始します。フェイルオーバーまたはリセットを先に開始した場合は、フェイルオーバーまたはリセットが終了してから、DR操作を開始します。

追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、本体装置では、`admin`と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。本体装置の権限は`useradm`限定であり、変更はできません。標準のUNIXユーザー名/パスワード認証またはSSH公開鍵認証を使用して一時`admin`としてログインすることはできません。一時`admin`アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時`admin`としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時`admin`アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時`admin`としてログインできない場合には、`showuser -l`コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

DVDドライブと`cfgadm`

Solarisの`cfgadm(1M)`コマンドを実行しても、M8000/M9000システム上のドメインからDVDドライブが構成解除されない場合があります。

Volume Management Daemon (`vold`) を無効にしてから、`cfgadm(1M)`コマンドを使用してDVDドライブを構成解除してください。`vold`を無効にするには、コマンド`/etc/init.d/volmgt stop`を実行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド`/etc/init.d/volmgt start`を実行してデーモンを再起動します。

Sun Crypto Accelerator 6000カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000カードでホットプラグ操作を行うと、M8000/M9000サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA6000ドライバおよびファームウェアのバージョン1.1の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000ドライバのバージョン1.0は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

U320 PCIe SCSIカード

U320 PCIe SCSIカード（部品番号375-3357-01/02）は、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバのPCIカセットではサポートされていません。375-3357-03以降を使用する必要があります。

Sun Java Enterprise Server

Sun Java Enterprise Serverは、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。概要およびドキュメントについては、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

注 – Java Enterprise System 5 Update 1をシステムにインストールすることによって発生する問題（CR 6644798）に対処するために、Web Console SMFサービスを有効にする必要が生じる場合があります。

▼ Web Console SMF サービスの有効化

- 端末にrootとしてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用している本体装置に必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、「Solarisパッチ情報」(P 5)を参照してください。

XSCF Webブラウザの問題

XSCF Webブラウザインターフェースでは、出力が切り捨てられる場合があります。たとえば、snapshot画面でSSHを選択したとき、Host、Directory、ID、Passwordの入力可能文字数がXSCFシェルでの入力可能文字数と一致しません。[Panic Log]ページで、パニックメッセージが最後の50行分しか表示されません (CR 6756052)。ブラウザインターフェースで、監査以外のログサイズ制限が最後の2桁しか表示されません (CR 6742502)。

出力全体を表示するには、XSCF Shellコマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。

WANブートサーバからのブート

WANブートインストール方法を使用すると、HTTPを使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WANブートサーバからM8000/M9000サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイルwanbootをインストールし、OpenBoot™バージョン4.24以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WANブートサーバの詳細については、使用しているSolaris 10 OSのバージョンに対応する『Solaris 10インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OSのドキュメントは次のWebサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

実行可能ファイルwanbootをアップグレードしないと、M8000/M9000サーバでパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

システムメモリの識別

▼ システム内の縮退メモリの識別

- XSCFにログインし、システムステータスを表示します。

```
XSCF> showstatus
```

次に、メモリボード#5上のDIMM番号0Aのメモリが縮退した例を示します。

```
XSCF> showstatus
      MBU_B Status:Normal;
      MEMB#5 Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

▼ showdevicesコマンドの使用によるメモリサイズの識別

- XSCFにログインし、デバイスを表示します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -dコマンドの出力を示したもので、0はdomain_idです。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----
      board   perm   base           domain  target  deleted  remaining
DID XSB  mem MB  mem MB  address      mem MB  XSB    mem MB  mem MB
00  00-0   65536   2402  0x0000000000000000  131072
00  01-0   16384    0  0x000003c000000000  131072
00  01-1   16384    0  0x0000038000000000  131072
00  01-2   16384    0  0x0000034000000000  131072
00  01-3   16384    0  0x0000030000000000  131072

...
```

この例は、システムボード00-0は64 GBのメモリを搭載し、他のシステムボードは16 GBのメモリを搭載していることを示しています。

▼ prtdiagコマンドの使用によるメモリサイズの識別

- ドメインで、システム診断情報を表示します。

```
# prtdiag
```

次の例は、prtdiagコマンドの出力を示したものです。

```
# prtdiag
...
===== Memory Configuration =====
Memory Available      Memory      DIMM      # of  Mirror Interleave
LSB   Group   Size          Status    Size    DIMMs Mode Factor
-----
00    A       32768MB      okay     2048MB  16 no   8-way
00    B       32768MB      okay     2048MB  16 no   8-way
01    A       8192MB       okay     2048MB  4 no   2-way
01    B       8192MB       okay     2048MB  4 no   2-way
02    A       8192MB       okay     2048MB  4 no   2-way
02    B       8192MB       okay     2048MB  4 no   2-way
03    A       8192MB       okay     2048MB  4 no   2-way
03    B       8192MB       okay     2048MB  4 no   2-way
04    A       8192MB       okay     2048MB  4 no   2-way
04    B       8192MB       okay     2048MB  4 no   2-way
...
```

この例は、さまざまなメモリサイズを示しています。

▼ ターゲットボードのカーネルメモリの識別

- XSCFにログインし、デバイスを表示します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -dコマンドの出力を示したもので、0はdomain_idです。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	65536	2402	0x0000000000000000	131072			
00	01-0	16384	0	0x000003c000000000	131072			
00	01-1	16384	0	0x0000038000000000	131072			
00	01-2	16384	0	0x0000034000000000	131072			
00	01-3	16384	0	0x0000030000000000	131072			

```
...
```

4列目のperm mem MBのエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、2402 MBのカーネルメモリが00-0にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合にdeleteboardコマンドまたはmoveboardコマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

CPUアップグレード（当社技術員のみ）

注 – SPARC64 VIIプロセッサを本体装置に搭載する作業は、当社技術員が行う必要があります。

この項では、SPARC64 VIIプロセッサをSPARC Enterprise M8000/M9000サーバに搭載する手順について説明します。

- 「新しいドメインに追加されたSPARC64 VII CPUモジュール」 (P 23)
 - 「既存のドメインに追加されたSPARC64 VIIプロセッサ」 (P 26)
-

注 – ファームウェアをXCP 1071にアップグレードする前に、「XCP 1080へのアップグレード」 (P 11) を参照してください。



注意 – SPARC 64 VIIプロセッサをシャーシに搭載する前に、XCPファームウェアおよびSolarisのアップグレードを完了しておく必要があります。

ドメイン内でプロセッサを組み合わせて構成する方法の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』の2.2.13項「ドメインモード設定」を参照してください。特に、「SPARC64 VIおよびSPARC64 VIIプロセッサとCPU動作モード」の項を参照してください。

新しいドメインに追加されたSPARC64 VII CPUモジュール

▼ 新しいドメインへの SPARC64 VII CPU モジュールの追加

注 – Solaris 10 8/07を新しいドメインにインストールする場合は、インストールサーバ上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります（[ステップ 20](#)を参照してください）。

1. `platadm`権限を持つアカウントでXSCFにログインします。
2. 現在、ステータスがFaultedまたはDeconfiguredと示されているFRUがないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

3. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレーターパネルのキーの位置をLockedからServiceに変更します。
6. XSCFスナップショットを収集し、アップグレード前のシステムステータスをアーカイブします。

アップグレード中に問題が発生した場合、システムステータスのスナップショットが役に立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. XCPのバージョンを1080にアップデートします。

ファームウェアをXCP 1080にアップデートする前に、「[XCP 1080へのアップグレード](#)」（P 11）を参照してください。ファームウェアをアップデートする手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』を参照してください。

8. CPUモジュール（CPUM）を本体装置に搭載します。

手順については、『SPARC Enterprise M8000/M9000サーバサービスマニュアル』の第12章「CPUモジュールの交換」を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPUモジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

9. `platadm`権限または`fieldeng`権限を持つアカウントで、XSCFに再びログインします。
10. 新しく搭載したCPUモジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、PSB#01を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

11. 搭載したCPUモジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

12. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

13. オペレーターパネルのキーの位置をServiceからLockedに変更します。

14. 既存のドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

15. 追加したCPUモジュールについて、次の設定を行います。

- 追加したCPUモジュールのXSBを設定
- ドメインを構成
- ドメインのCPU動作モードを設定

これらの設定については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザズガイド』の第2章「XSCF使用のためのセットアップ」を参照してください。

16. setdomainmode(8)コマンドを使用して、ドメインの自動ブート機能を無効にします。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザズガイド』およびsetdomainmode(8)のman pageを参照してください。

17. 新しいドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

18. ターゲットドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

19. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

20. SPARC64 VIIプロセッサをサポートするバージョンのSolaris OSをインストールします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、「[サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム](#)」(P4)を参照してください。

Solaris 10 8/07を新しいドメインにインストールする場合は、インストールサーバ上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります。SPARC64 VIIプロセッサでSolaris 10 8/07を実行するために必要なパッチについては、「[Solarisパッチ情報](#)」(P5)を参照してください。ネットワークインストールについては、『Solaris 10 8/07インストールガイド (ネットワークインストール)』(Part No. 820-0177)を参照してください。

21. setdomainmode(8)コマンドを使用して、ドメインの自動ブート機能を有効にします。

自動ブート機能は、ドメインのリブートによって適用されます。詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』およびsetdomainmode(8)のman pageを参照してください。

既存のドメインに追加されたSPARC64 VIIプロセッサ

SPARC64 VIIプロセッサを既存のドメインに追加する手順には、2つの段階があります。まず、システムを準備します（「既存のドメインへのSPARC64 VIIプロセッサ追加の準備」（P 26）を参照）。その後で、次のいずれか該当する搭載シナリオの手順を使用して、プロセッサを搭載します。

- 「SPARC64 VIで構成されているドメインへのSPARC64 VII CPUモジュールの追加」（P 29）
- 「既存ドメインにおけるSPARC64 VI CPUモジュールのSPARC64 VIIへのアップグレード」（P 30）

▼ 既存のドメインへのSPARC64 VIIプロセッサ追加の準備

1. 必要に応じて、SPARC64 VIIプロセッサをサポートするバージョンのSolaris OSにアップグレードします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、「サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム」（P 4）を参照してください。必須パッチがあれば適用します。

2. platadm権限を持つアカウントでXSCFにログインします。

3. 現在、ステータスがFaultedまたはDeconfiguredと示されているFRUがないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

4. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

5. ドメインの電源が切断されていることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

6. オペレーターパネルのキーの位置をLockedからServiceに変更します。

7. XSCFスナップショットを収集し、アップグレード前のシステムステータスをアーカイブします。

アップグレード中に問題が発生した場合、システムステータスのスナップショットが役に立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

8. XCPのバージョンを1080にアップデートします。

ファームウェアをXCP 1080にアップデートする前に、「[XCP 1080へのアップグレード](#)」(P 11)を参照してください。ファームウェアをアップデートする手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』を参照してください。

9. platadm権限またはfieldeng権限を持つアカウントで、XSCFに再びログインします。

10. すべてのドメインの電源を投入し、OpenBoot PROMファームウェアを適用します。

```
XSCF> poweron -a
```

okプロンプトが表示されます。Solaris OSを起動する必要はありません。

11. アップデートされたOpenBoot PROMバージョンを確認します。

```
XSCF> version -c cmu -v
```

XCP 1080の場合、OpenBoot PROMのバージョンは02.07.0000です。出力は次のようになります。

```
XSCF> version -c cmu -v
DomainID 0: 02.07.0000
DomainID 1: 02.07.0000
DomainID 2: 02.07.0000
DomainID 3: 02.07.0000
...
DomainID 15 : 02.02.0000

XSB#00-0: 02.07.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-1: 02.07.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-2: 02.07.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-3: 02.07.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-0: 02.07.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-1: 02.07.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-2: 02.07.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-3: 02.07.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
...
```

12. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

13. 適切なインストール手順を続行します。

- SPARC64 VII搭載の新しいCPUモジュールを、SPARC64 VIプロセッサで構成されているドメインに追加する場合、「[SPARC64 VIで構成されているドメインへのSPARC64 VII CPUモジュールの追加](#)」(P 29)の手順を続行します。
- 既存ドメインで、既存のSPARC64 VI CPUモジュールをSPARC64 VIIプロセッサにアップグレードする場合、「[既存ドメインにおけるSPARC64 VI CPUモジュールのSPARC64 VIIへのアップグレード](#)」(P 30)の手順を続行します。

▼ SPARC64 VIで構成されているドメインへのSPARC64 VII CPUモジュールの追加

この手順の前に、「既存のドメインへのSPARC64 VIIプロセッサ追加の準備」(P 26) の手順を完了しておく必要があります。まだの場合は、完了してからこちらの手順に進んでください。

1. CPUMを本体装置に搭載します。

手順については、『SPARC Enterprise M8000/M9000サーバサービスマニュアル』の「CPUモジュールの交換」の章を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPUモジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

2. platadm権限またはfieldeng権限を持つアカウントで、XSCFに再びログインします。

3. 新しく搭載したCPUモジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、PSB#01を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

4. 搭載したCPUモジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

5. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

6. オペレーターパネルのキーの位置をServiceからLockedに変更します。

7. CPUモジュールについて、次の設定を行います。

- XSBを設定
- LSBを設定
- XSBをドメインに追加
- ドメインのCPU動作モードを設定

これらの設定については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザズガイド』の第2章「XSCF使用のためのセットアップ」を参照してください。

8. すべてのドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

9. すべてのドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

10. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

▼ 既存ドメインにおけるSPARC64 VI CPUモジュールのSPARC64 VIIへのアップグレード

この手順の前に、「[既存のドメインへのSPARC64 VIIプロセッサ追加の準備](#)」(P 26) の手順を完了しておく必要があります。まだの場合は、完了してからこちらの手順に進んでください。

1. SPARC64 VI CPUモジュールをSPARC64 VII CPUモジュールと交換します。

手順については、『SPARC Enterprise M8000/M9000サーバサービスマニュアル』の第12章「CPUモジュールの交換」を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPUモジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

2. `platadm`権限または`fieldeng`権限を持つアカウントで、XSCFに再びログインします。

3. 新しく搭載したCPUモジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、SPARC Enterprise M8000サーバにPSB#01を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

4. 搭載したCPUモジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

5. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

6. オペレーターパネルのキーの位置をServiceからLockedに変更します。

7. ドメインのCPU動作モードを設定し、確認します。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFユーザーズガイド』の第2章「XSCF使用のためのセットアップ」を参照してください。

8. すべてのドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

9. ターゲットドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

10. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```


ソフトウェアに関する情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCPに関する問題と回避方法」 (P 33)
- 「Solaris OSに関する問題と回避方法」 (P 36)
- 「ドキュメントの変更予定」 (P 52)

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

XCPに関する問題と回避方法

表 3にXCPの問題と実行可能な回避方法を示します。

表 3 XCPに関する問題と回避方法

ID	説明	回避方法
6583035	活性交換のために <code>addfru(8)</code> コマンドまたは <code>replceafru(8)</code> コマンドが使用された後、DR操作が失敗することがあります (DRのために使用できないボードに関する誤ったメッセージが表示されます)。保守メニューで診断テストを実行せずに活性交換を行うと、この問題が発生します。	この問題を回避するには、 <code>addfru(8)</code> コマンドまたは <code>replacefru(8)</code> コマンドの保守メニューで診断を実行してください。 復旧には、 <code>testsb(8)</code> コマンドを実行するか、 <code>deletefru(8)</code> コマンドでCPU/メモリボードユニットを削除してから <code>addfru(8)</code> コマンドを再実行してください。

表 3 XCPに関する問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
6633646	本体装置のインストール中にメインラインスイッチを初めて投入したとき、次のエラーメッセージが表示されることがあります。 PSU shortage XSCF watchdog timeout XSCFU hang-up is detected XSCF process down detected	システムAC電源をオフにしてから再度オンにしてください。 エラーログが再度表示された場合は、システムAC電源をオフにしてから再度オンにしてください。オフにしたシステム電源をオンにする場合は、30秒以上待ってからオンにしてください。
6714765	setsnmp(8)コマンドおよびshowsnmp(8)コマンドが、許可の失敗をユーザーに通知しません。	回避方法はありません。SNMPトラップホストが動作していることを確認し、正しいユーザー名を使用してコマンドを再実行してください。
6723305	XSCF Webで、サマータイムが正しく表示されません。	回避方法はありません。showlogs(8)コマンドを使用して、サマータイムの時刻を確認してください。
6726679	XSCFでwatchdog timeoutが発生すると、以降のSNMP Trapが通知されません。この症状は断続的に発生します。XSCFでwatchdog timeoutが発生しXSCFがリセットされると、以降のSNMP Trapが通知されません。	XSCFをリセットしてください。
6735711	setemailreport(8)コマンドが、255文字を超える受信者の電子メールアドレスを処理できません。	255文字以下の電子メールアドレスを使用してください。
6741770	SNMPトラップホストの設定を変更しても、setsnmp disableとsetsnmp enableを実行するまで反映されません。	SNMPの設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable
6742502	ブラウザインターフェースで、監査以外のログサイズ制限が最後の2桁しか表示されません。	Archive Logの制限を「0」に設定しないでください。showarchiving(8)コマンドを使用して、ログサイズ制限を確認してください。
6742951	setlogarchiving(8)コマンドが、Audit Logの制限として「-1」を受け入れ、その制限を「Unlimited」として設定します。	回避方法はありません。
6743842	passwordコマンドの[user]オペランドは、ドキュメントでは省略可となっているにもかかわらず、オプション設定時に指定しない場合はエラーとなります。	回避方法はありません。 オプションを設定した場合は、[user]オペランドを指定してpasswordコマンドを実行してください。
6744772	logarchivingの制限を超えたためにログがそれ以上アーカイブされなくなる場合に、そのことを示す警告メッセージが表示されません。	定期的にshowarchiving(8)コマンドを実行し、必要に応じて制限を調節してください。または、ログアーカイブの使用領域が指定の制限に近づいた場合には、ログアーカイブホストで既存のログを手動で循環させてください。

表 3 XCPに関する問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
6755113	flashupdate(8)の実行中にXSCFがパニックすることがあります。	flashupdate(8)コマンドを使用して、再度、ファームウェアアップデートを行ってください。
6755986	Internet Explorer 6または7で、XSCF Webの[Setting]->[Audit]->[Add Policy]を選択したときに表示されるポップアップ画面上で、[Reset]ボタンをクリックした後[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが出力され、ログアウトされる場合があります。 Error Session Error Session ID has been expired	XSCF Webに再ログインしてください。ポップアップ画面の[User]テキストボックス内のテキストを消去する場合は、[Reset]ボタンを使用せずに、BackSpaceキーを使用してください。
6756052	XSCF Webのパニックログがメッセージの先頭から表示されない場合があります。	出力の一部しか表示されていない場合は、XSCFシェルでshowlogsパニックコマンドを実行してください。
6757064	ファームウェアアップデートが、「XSCF FMEM write error」で失敗する場合があります。	システムの電源をいったん切断 (AC OFF) してから、再投入 (AC ON) してください。その後、再度ファームウェアアップデートを実行してください。
6757614	XSCF Webのネットワーク設定では、setnetwork -rオプションに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名にlocalhostやlocaldomainを指定すると、「SessionID has expired」というエラーメッセージが出力されます。	XSCFシェルでsetnetwork -rコマンドを実行してください。
6765466	DID15よりも高いシングルドメイン権限を持つアカウントでは、定義されたLSBに関連する情報がXSCF Webの[Domain Configuration]ページに表示できません。また、このようなLSBに対して[XSB Config...]ボタンによる操作も実行できません。	XSCFシェルでshowdcl(8)、addboard(8)、deleteboard(8)、およびmoveboard(8)の各コマンドを使用してください。
6765468	タイムゾーンの値が3文字ではない場合、エラーログがXSCF Webの[Error Log]ページに表示できません。また、XSCF Webの[Panic Log]ページおよび[IPPL Message Log]ページで、表の日付が「---」と表示されます。	XSCFシェルでshowlogs(8)コマンドを使用してください。

Solaris OSに関する問題と回避方法

この項では、Solaris OSに関する問題について説明します。表 4、表 5、表 6、および表 6に、使用しているSolaris OSリリースに応じて発生しうる問題を示します。

サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題

サポートされているリリースのSolaris OSで発生しうる問題を、表 4に示します。

表 4 サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6449315	Solarisの <code>cfgadm(1M)</code> コマンドが、M8000/M9000サーバ上のドメインからDVDドライブを構成解除しません。	Volume Management Daemon (<code>vold</code>) を無効にしてから、 <code>cfgadm(1M)</code> コマンドを使用してDVDドライブを構成解除してください。 <code>vold</code> を無効にするには、コマンド <code>/etc/init.d/volmgt stop</code> を実行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド <code>/etc/init.d/volmgt start</code> を実行してデーモンを再起動します。
6459540	DAT72内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。また、デバイスがシステムにQICドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、 <code>/kernel/drv/st.conf</code> に追加してください。 <pre>tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE DAT DAT72-000= 1, 0x34, 0, 0x9639, 4, 0x00, 0x8c, 0x8c, 0x8c, 3;</pre> SEAGATE DATとDAT72-000の間には半角スペースが4つ必要です。
6522017	ZFSファイルシステムを使用しているドメインは、DRを使用できません。	ZFS ARCの最大サイズを小さくしてください。詳細については、当社技術員にお問い合わせください。
6531036	<code>boot net</code> によるインストール後に、エラーメッセージ <code>network initialization failed</code> が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。

表 4 サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6531668	中断状態でSP DRの平行ホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングします。	回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時にvolfsやdscpサービスの起動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 <pre># svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6535018	SPARC64 VIIプロセッサを搭載したSolarisドメインでは、スレッド数を256超の値に増やしても、Solarisカーネルの使用負荷が予想どおりに上がらないことがあります。	これはパッチ137111-01で修正済みです。 SPARC64 VIIプロセッサを搭載したSolarisドメインでは、ドメインを最大256スレッドに制限してください。
6565553, 6674266	DR deleteboard(8)およびmoveboard(8)操作が失敗することがあります。 ドメインに表示されるメッセージの例を次に示します。 <pre>drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci</pre>	回避方法はありません。 DR操作を再実行してください。
6572827	prtdiag -vコマンドでPCIバスのタイプが間違っていて出力されます。PCI-Xリーフデバイスが「PCI」、レガシーPCIデバイスが「UNKN」と表示されます。	回避方法はありません。
6575970	DRとXSCFのフェイルオーバーが不整合です。	
6588555	カーネルメモリでDR操作中にXSCFをリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR操作の進行中は、XSCFリセットを起動しないでください。DR操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。
6588650	バックアップXSCFへのXSCFフェイルオーバーまたはバックアップXSCFからのXSCFフェイルオーバーの後、システムのDRが不可能となる場合があります。	回避方法はありません。
6589644	addboardコマンドでSBが追加された後、XSCFの切り替えが発生したときに、コンソールが認識されなくなります。	コンソールを復旧させるには、次のキーを押します。 Ctrl-q (「Ctrl」キーと「q」キー)

表 4 サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6592302	DR操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。	<code>addboard -d</code> コマンドを使用してボードをドメインに戻し、復旧することができます。
6619224	SPARC 64 VIIプロセッサを搭載したSolarisドメインでは、256スレッド以上のシングルドメインが、一定の異常状態で長期間にわたってハングすることがあります。復旧時に、 <code>uptime</code> コマンドは極端に高い負荷平均を示します。	これはパッチ137111-03で修正済みです。 SPARC 64 VIIプロセッサを搭載したSolarisドメインでは、シングルSolarisドメインで256の仮想プロセッサのドメインサイズを超過しないようにしてください。つまり、シングルドメイン構成で最大32 CPUになります (M8000サーバの最大構成)。
6623226	Solarisコマンドの <code>lockstat(1M)</code> や <code>dtrace lockstat provider</code> で、システムパニックが発生することがあります。	Solarisの <code>lockstat(1M)</code> コマンドおよび <code>dtrace lockstat provider</code> を使用しないでください。
6625734	シングルドメイン環境で多数のプロセッサが存在するシステムでは、一定の負荷を伴う準最適パフォーマンスになることがあります。	プロセッサセットを使用して、アプリケーションプロセッサまたはLWPをプロセッサのグループにバインドしてください。詳細については、 <code>psrset(1M)</code> のman pageを参照してください。
6660168	ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生するとSolaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMAサービスが停止することがあります。 これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。	<code>fmd</code> サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。 <pre># svcadm clear fmd</pre> その後、 <code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。 <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>

表 4 サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
	<p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled.Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled.Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT-ID></code> to locate the module.Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</p>	
6668237	<p>DIMMを交換しても、該当するDIMMの故障がドメインから消去されません。</p>	<p>コマンド <code>fmadm repair <i>fmri</i> <i>uuid</i></code> を使用して修復を記録してください。その後、コマンド <code>fmadm rotate</code> を使用して残りのイベントを消去できます。</p>
6679370	<p>システムのブート中、ホットプラグによるPCIボックスの追加中、またはDRによるFMEMAの操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。 SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCIExpress subsystem. Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information. ...</p>	<p><code>/etc/system</code>に次の行を追加し、ドメインをリブートしてください。 <code>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</code></p>

表 4 サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6680733	<p>負荷が高い状況で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) およびSun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NICがパニックすることがあります。</p>	<p>このバグに対するパッチが入手可能かどうかを確認してください。</p>
6689757	<p>単一のXFP光トランシーバまたは正しく取り付けられていないXFP光トランシーバでSun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.</p>	<p>両方のXFP光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。 INTELとSunのXFP光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。 ポートにXFP光トランシーバが含まれていない場合、またはポートにXFP光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfigコマンドでポートを精査しないでください。</p>
6707628	<p>Mx000システムに関するスケジューラの決定が不均衡になる場合があります。 あるコア上に2つのスレッド（両方ともほぼ半分の速度で動作します）が存在し、同時に別のコアがアイドルになっていることがあります。 多くのOpenMPおよび類似のパラレルアプリケーションでは、アプリケーションのパフォーマンスが、最も遅いスレッドの速度に制限されます。 不均衡なスケジューリングは一般的ではありません（50の決定に1つまたは100の決定に1つ程度になると考えられます）。ただし、128のスレッドが動作している場合、アプリケーションには不均衡なスケジューリングイベントが1つ以上存在する可能性があります。</p>	<p>プロセッサセットを使用して、コア割り当てに対する不均衡なスレッドを防止してください。</p>
6745410	<p>システムをブートしないようにするKadbオプションが、ブートプログラムで無視されます。</p>	<p>kadbの代わりにkmdbを使用してください。</p>

Solaris 10 10/08で修正されたSolarisの問題

表 5 に、Solaris 10 10/08 OSで修正された問題を示します。Solaris 10 10/08より前のサポートされているリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 5 Solaris 10 10/08で修正されたSolaris OSの問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムのリブート後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
6533686	XSCFでシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動するDR <code>deleteboard</code> または <code>moveboard</code> 操作が、次に示す1つ以上のエラーで失敗することがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout この問題が発生するのは、マルチドメインのホストであるQuad-XSB構成のシステムボードだけです。	これはパッチ138397-01で修正済みです。 後で、DR操作を再実行してください。
6556742	DR時にDiskSuiteが <code>metadb</code> を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBASG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBASG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBASG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA	<code>metadb</code> の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。
6589833	SAPプロセスがSun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとすると、DR <code>addboard</code> コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状態で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。 <ul style="list-style-type: none">X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTPX1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter	回避方法はありません。

表 5 Solaris 10 10/08で修正されたSolaris OSの問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6614737	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8)およびmoveboard(8)操作がハングすることがあります。</p> <p>DIMMが縮退している。</p> <p>ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。</p>	<p>Solaris 10 5/08またはそれより前の場合、これはパッチ137111-01で修正済みです。</p> <p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR操作を実行しないようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 縮退メモリ - システムに縮退メモリが含まれているかどうかを確認するには、XSCFコマンドshowstatusを使用します。出力例については、「システムメモリの識別」(P 19)を参照してください。 異なるメモリサイズ - ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCFコマンドshowdevicesまたはドメインでprtdiagコマンドを使用してメモリサイズのリストを表示します。出力例については、「システムメモリの識別」(P 19)を参照してください。 <p>DRコマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリブートしてください。</p>
6632549	<p>ドメインでのfmd serviceが、DR操作後に保守モードに対して失敗することがあります。</p>	<p>これはパッチ138050-01で修正済みです。</p> <p>ドメインで次のコマンドを実行します。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre>
6660197	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DRによってドメインがハングすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドメインに256以上のCPUが含まれている。 メモリエラーが発生し、DIMMが縮退している。 	<p>これはパッチ138397-01で修正済みです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set drmach:drmach_disable_mcopy = 1 ドメインをリブートしてください。
6718173	<p>ドメインが次のいずれかのSolaris OSのバージョンを実行している場合、通常の操作中にシステムがパニックまたはトラップすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Solaris 10 5/08 OS パッチID 127127-11を含むSolaris 10 OSの前のバージョン 	<p>次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set heaplp_use_stlb=0</p> <p>その後、ドメインをリブートしてください。</p>

Solaris 10 5/08で修正されたSolarisの問題

表 6に、Solaris 10 5/08 OSで修正された問題を示します。Solaris 10 5/08より前のサポートされているリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 6 Solaris 10 5/08で修正されたSolaris OSの問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
5076574	大規模なM9000/M8000ドメインでは、PCIeエラーが発生すると障害診断が無効になるおそれがあります。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.confを作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6348554	以下のカードでcfgadm -c disconnectコマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。 <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA• SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA• SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA• SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA	影響のあるカードでは、cfgadm -c disconnect操作を実行しないでください。
6472153	SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4uサーバ以外のサーバ上にSolarisフラッシュアーカイブを作成し、それをSPARC Enterprise M8000/M9000 sun4uサーバにインストールすると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。	Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これはパッチ137046-01で修正済みです。 SolarisフラッシュアーカイブからSolaris OSをインストールした直後にSPARC Enterprise M8000/M9000サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします。 # sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscs" -f "9600"

この作業は1回だけ実行してください。

表 6 Solaris 10 5/08で修正されたSolaris OSの問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6505921	システムPCIeバスコントローラの修正可能なエラーによって、無効な障害が発生します。	Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これは120011-14および125369-05で修正済みです。 次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.confを作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6522433	リポート後のCPU障害によって、fmdumpが正しいマザーボードを識別できないことがあります。	Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これはパッチ127127-11で修正済みです。 XSCFのシステムステータスを確認してください。
6527811	XSCF上でshowhardconf(8)コマンドを使用すると、PCIホットプラグを使用してPCIボックスが設定されていても、PCIボックスにインストールされているPCIカード情報を表示することができません。	Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これはパッチ128346-01で修正済みです。 回避方法はありません。PCIボックス内の各PCIカードがPCIホットプラグを使用して設定されていれば、PCIカード情報は正しく表示されます。
6536564	showlogs(8)およびshowstatus(8)コマンドが、別のI/Oコンポーネントを報告することがあります。	Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これはパッチ125369-05で修正済みです。 この問題を事前に回避するには、ドメインで以下のコマンドを実行してください。 # cd /usr/platform/SUNW,SPARCEnterprise/ lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd 次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください。 SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc

表 6 Solaris 10 5/08で修正されたSolaris OSの問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6545143	ユーザースタックアドレスのTLBミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウィンドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 bad kernel MMU trap at TL 2	Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これはパッチ127111-08で修正済みです。 回避方法はありません。
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って4DIMMまたは8DIMMに縮退することがあります。	Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これはパッチ127111-08で修正済みです。 /etc/systemで次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。 set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000
6546188	以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) およびDR操作 (addboardおよびdeleteboard) を実行すると、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07の場合、これはパッチ127741-01で修正済みです。 回避方法はありません。
6551356	未設定のカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告:PCI拡張ROMにアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07の場合、これはパッチ127741-01で修正済みです。 注 -I/Oカードを取り外すために <code>cfgadm -c unconfigure</code> を使用しないでください。 カードを完全に取り外すには、 <code>cfgadm -c disconnect</code> を使用します。10秒以上待ってから、 <code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。
6559504	以下のカードを使用すると、 <code>nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn</code> という形式のメッセージがコンソールに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	これらのメッセージは無視して差し支えありません。

表 6 Solaris 10 5/08で修正されたSolaris OSの問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6563785	<p>以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	<p>カードを切断した後、数秒待ってから再接続してください。</p>
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対してDR deleteboard操作を実行すると、接続が切れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07の場合、これはパッチ127741-01で修正済みです。</p> <p>DR操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順についての詳細は、<code>ifconfig</code>のman pageを参照してください。</p>
6568417	<p>CPU DR deleteboard操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これはパッチ127111-02で修正済みです。</p> <p><code>/etc/system</code>に次の行を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07の場合、これはパッチ127741-01で修正済みです。</p> <p><code>/etc/system</code>に次の行を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6584984	<p><code>-w</code>を指定して<code>busstat(1M)</code>コマンドを実行すると、ドメインがリブートされることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。<code>-w</code>オプションを指定して<code>busstat(1M)</code>コマンドを<code>pcmu_p</code>で実行しないでください。</p>
6589546	<p><code>prtdiag</code>は、次のカードのすべてのIOデバイスを表示するわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA 	<p>Solaris 10 8/07またはそれより前の場合、これはパッチ127127-11で修正済みです。</p> <p>完全出力には<code>prtdiag -v</code>を使用してください。</p>

Solaris 10 8/07で修正されたSolarisの問題

表 6に、Solaris 10 8/07 OSで修正された問題を示します。Solaris 10 11/06では、これらの問題が発生する可能性があります。



注意 – ICR ID #6534471:カーネルメモリ内の大きなページが適切に処理されないと、パニックが不規則に発生するおそれがあります。CR ID #6534471の回避方法を実行するか、またはパッチが入手可能かどうかを確認し、パッチをただちにインストールしてください。このバグは125100-06およびSolaris 10 8/07で修正済みです。

表 6 Solaris 10 8/07で修正されたSolaris OSの問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6303418	シングルドメインで11以上のフル実装システムボードを備えるM9000サーバは、負荷が高い状態でハングすることがあります。	CPUスレッドの数が170を超えないようにしてください。 Solaris <code>psradm</code> コマンドを使用して過剰なCPUスレッドを無効にして、CPUスレッドの数をCPUコアあたり1つに制限してください。たとえば、奇数のCPUスレッドをすべて無効にします。
6416224	単一のNICカードの接続数が5,000を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-08で修正済みです。 複数のNICカードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6441349	I/Oエラーでシステムがハングすることがあります。	Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-07で修正済みです。 回避方法はありません。
6485555	レースコンディションにより、オンボードのGigabit Ethernet NVRAMに障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-08で修正済みです。 回避方法はありません。

表 6 Solaris 10 8/07で修正されたSolaris OSの問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「cpumem-diagnosis」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用するFMAによって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ffem7-d0</p>	<p>Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ125369-05で修正済みです。</p> <p>問題がすでに発生している場合: 回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. cpumemdiagnosisファイルを削除してください。 <pre># rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis</pre> 2. fmd serviceを再起動してください。 <pre># svcadm restart fmd</pre> <p>この問題を事前に回避するには、「rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis」を/lib/svc/method/svc-dumpadmファイルに、次のように追加してください。 <pre># savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis #</pre></p>
6495303	<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSIコントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) をSPARC Enterprise M8000/M9000サーバのIOUスロット1で使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>このカードをIOUスロット1で使用しないでください。</p>
6498283	<p>ドメインでpsradm操作の実行中に、DRコマンドdeleteboardを使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6499304	<p>予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生してもCPUはオフラインになりません。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ125369-05で修正済みです。</p> <p>XSCFのCPUステータスを確認してください。</p>

表 6 Solaris 10 8/07で修正されたSolaris OSの問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6502204	<p>CPU UEパニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ125369-05で修正済みです。</p> <p>予期しないメッセージが表示された場合は、<code>showdomainstatus(8)</code>コマンドを使用して、XSCFのシステムステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>増設または減設されたホットプラグのPCIカードが通知メッセージを出力しないことがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-08で修正済みです。</p> <p>回避方法はありません。</p>
6508432	<p>PCIeの偽の修正可能なエラーがFMAエラーログに多数記録されることがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-08で修正済みです。</p> <p>これらのエラーをマスクするには、次のエントリを<code>/etc/system</code>に追加し、システムをリブートしてください。 <code>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</code></p>
6508434	<p>PCIホットプラグを使用してPCI-Xカードを増設または交換すると、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-08で修正済みです。</p> <p>PCIホットプラグを使用して、異なるタイプのPCI-Xカードを同じPCIスロットに増設しないでください。</p>
6510861	<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSIコントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIeの修正可能なエラーによってSolarisのパニックが発生します。</p>	<p>Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-08で修正済みです。</p> <p>この問題を回避するには、次のエントリを<code>/etc/system</code>に追加してください。 <code>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</code></p>
6520990	<p>ドメインがリポートしたとき、SCFが同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。</p>	<p>次の記述を<code>/etc/system</code>に設定してDRタイムアウト時間を大きくし、システムをリブートします。 <code>set drmach:fmem_timeout = 30</code></p>

表 6 Solaris 10 8/07で修正されたSolaris OSの問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6527781	2つのドメイン間でDVD/DATドライブを移動中に、 <code>cfgadm</code> コマンドが失敗します。	回避方法はありません。DVD/テープドライブユニットを再構成するには、問題が発生しているドメインから <code>reboot -r</code> を実行してください。
6530178	DR <code>addboard</code> コマンドがハングすることがあります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインのリポートが必要です。	Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-07で修正済みです。 回避方法はありません。
6530288	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドが <code>Ap_Id</code> フォーマットを正しく表示しないことがあります。	Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-07で修正済みです。 回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトランプすることがあります。	このバグはSolaris 10 8/07で修正済みです。このバグに対するパッチが入手可能かどうかを確認してください。 パッチが入手可能でない場合は、カーネルの大きなページのsTLBプログラミングを無効にしてください。/etc/systemファイルで、 <code>heaplp_use_stlb</code> 変数を0に変更してください。 <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre>
6535564	DRによって追加されたXSBで、PCIスロット#0、#1、またはPCIボックスに対するPCIホットプラグが失敗することがあります。	Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-08で修正済みです。 XSBのPCIカードを増設または減設する必要がある場合は、PCIホットプラグの代わりにDRを使用してください。

表 6 Solaris 10 8/07で修正されたSolaris OSの問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6539084	ドメインにSun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リブート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	これはパッチ125670-01で修正済みです。
6539909	boot net installコマンドを使用してSolaris OSをインストールしているとき、ネットワークアクセスに次のI/Oカードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由でSolaris OSをインストールしてください。
6542632	ドライバ接続に失敗すると、PCIeモジュールにメモリリークが発生します。	Solaris 10 11/06の場合、これはパッチ120011-09で修正済みです。
		回避方法はありません。

ドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントが出版された後に知られるようになった最新情報を示します。

なお、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFリファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのない限り、**man page**にも適用されます。また、**man page**の情報よりも優先されます。

表 8に、ドキュメントの変更予定を示します。

表 8 ドキュメントの変更予定

ドキュメント	変更対象	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFリファレンスマニュアルおよびXSCF man page	traceroute(8) コマンド	ユーザー権限内の以下の記述は削除されます。 <ul style="list-style-type: none">DSCPアドレスに対して実行する場合 fieldeng オペランド内の記述に、以下の内容が追加されます。 DSCPアドレスを指定した場合はエラーとなります。
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド	setloginlockout(8) showloginlockout(8) コマンド	これらのコマンドは、このXCPリリースでは使用できません。
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバアドミニストレーションガイド	setloginlockout(8) showloginlockout(8) コマンド	これらのコマンドは、このXCPリリースでは使用できません。